

高校生 ギャラリー

「昔々の」

油絵

東京・武蔵野北高校 大西智代さん(3年)
(2015年度東京都高校文化祭美術・工芸部門中央展 東京都教育委員会賞)

太古の遺跡と、そこに迷い込んだ少年を描いたものです。途方もなく長い時間の流れを表そうと制作したので、タイトルも「昔々の」と付けました。特に、中央の石盤の描き込みに苦労したので注目してほしいです。



「麻姑仙壇記」

書道

北海道・旭川西高校 野崎伊織さん(3年)
(第24回国際高校生選抜書展個人の部準大賞)

作品選びの1カ月前まで創作を出すつもりで書いていましたが、高文連での批評や書いている時の楽しさを思い出して、やはり大好きな臨書で勝負しよう決めました。線の力強さや、白と黒のバランスを意識して書くことができたとします。



「素晴らしき青春」

写真

京都・東山高校 中川光裕君(3年)
(2015年度京都高校写真連盟作品審査会個人の部第3席)

10月に行われる体育祭に、3年生の「演舞」があります。演舞を終えた3年生が記念撮影のために集合したところを、横から撮らせてもらいました。感動を分かち合う先輩たちと先生の表情を収めました。

作品大募集! 絵画、漫画、イラスト、写真、書道など、みんなの作品を送ってね! 作品名、作品の写真データ、作品の解説(100字程度)、氏名、学校名・学年を明記の上、メールで編集部までお送りください。先生を通じての応募も歓迎します。
※個人情報の取り扱いについては、19面の「個人情報保護と利用目的について」に同意の上、ご応募ください。

E-mail henshu@sclpa.jp 問合せ 042-725-1155

高畑充希さん(3)

困難があっても前向きに

NHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」でヒロインを務める女優の高畑充希さん。「いつもポジティブ思考でちょっぴり能天気」と自身の性格を語るが、高校時代は「我が強くて、社交的ではなかった」という。多くの人との関わりを通じて成長し、友人関係も変化した。
(文・中田宗孝、写真・玉井幹郎)

高校時代は「どこか無敵」

明るい役どころが多く、朗らかなイメージだが、高校生のころは「社交的なタイプではなかった」と振り返る。

「我が強くて、どこか『自分は無敵』だと思っていました。例えば、自分がこうだと決めたら、他の意見には耳を貸しませんでした。同級生から見たらトゲトゲしかっただろうな(苦笑)」

「1人でも平気」。そんな心境だったが、女優の仕事を通じて多くの人と接したことで精神的にも大きく成長した。

「自分と違う意見でも受け入れてみる。『寂しい』と素直に人に頼ってみる。すると、張りつめた気持ちが楽になって自分らしくいられるんです」

内面が成熟すると、高校時代の友人との関係にも変化が。

「高校卒業後に仲良くなった子もいます。正反対の性格だと

ころから好きだった読書が、受験の小論文で役立ったという。

「読書で、感情を表す多くの言葉を知りました。そして、自分の考えや思いを伝える言葉を、頭の中から見つけられるようになりました。あとは、ひたすら書いて小論文に慣れました」

撮影ではノートを活用

現在はドラマ「とと姉ちゃん」の撮影に全力投球。普段は台本を書いて覚えることはしないが、この作品ではせりふなどを細かく書き込んだノートを持参して撮影に臨む。「物語の時系列と役柄の感情の流れをまとめたノートを本番前に読み返します。それで気持ちを整理すると演技に集中できます」

高畑さんが演じる、亡き父に代わり家族を支える常子は「悩みを引きずらない能天気さが自分と重なる」という。

「常子は『何とかなるの精神』